

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201247		
法人名	株式会社 ケア・グループ		
事業所名	グループホーム 井野の家		
所在地	高崎市井野町860-12		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_pref
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>危険が伴わなければ、基本ご本人の自由に行動されることが出来、自立した生活を施設利用者や職員と穏やかに楽しく落ち着いた生活環境がある。 季節の食材を使い、手作りのお食事を提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>毎月、社長・管理者・ケアマネージャー・職員が参加のもとヘルパー会議を行い、ケア内容の見直しや記録などの約束事について細かく議論を行い、統一したケアの提供に繋がっている。利用者の趣味を掘り起こして、昔を思い出してもらうために、例えば、利用者本人が写っている溪流釣りや盆栽などのビデオを流して話題作りをしながら、今の生活支援に活かしている。毎月、ケアマネージャーが短期目標を達成しているかを評価して、アセスメントに繋げている。カンファレンスの時には、プラン案を全職員にコピーして渡し検討することで、プラン変更の結論を得ている。災害訓練時は居室の入り口にかけてある造花を廊下に落とし部屋を閉めるとともに、利用者の名前と電話番号を記入した名札を首にかけて、見守りの方が一目で分かるような工夫が行われ、実践的な訓練になっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人格尊重の介護 高齢者同士が自由に自分らしく生きる使命感を持った職務遂行 地域とのふれあい 毎朝基本理念を職員全員で唱和し共有	理念は開設当初からの内容であり、意味を共有するために、毎朝、「理念」と利用者が安心して過ごせるための具体的な4つの「禁止事項」を、唱和している。入職時等に理念などのアンケートをとり、職員の考え方や声を聞いて、管理者が指導に繋げている。	職員個々が、理念の意味を理解する機会づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と気軽に挨拶を交わす 季節の野菜などを頂いたりしている	近隣の方が野菜を届けてくれたり、声をかけてくれたり、地域の方との繋がりはあるが、具体的な働きかけには至っていない。	地域の一員として地域で必要とされる活動や役割を担うためにも、地域への働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でのご家族や民生委員さんの意見を伺いながら思考している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、家族の参加を考慮して土・日曜日に実施しているため、市担当者の出席は少ない。現在コロナ禍であり会議が開催できないので、事業所の活動状況報告や便りなどを、会議メンバーに持参して関係継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	向上に取り組んでいる	市役所へは運営推進会議のまとめや、インシデントの報告の時に伺ったり、電話相談をしたりして、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員との話し合いを十分行い、拘束は絶対ないようにする事を理解して頂く	2ヶ月に1回適正委員会で、日々の気になる点が話し合われている。毎月5日にヘルパー会議を開催し、法人役員を交え、ケアマネジャー・職員で話し合い、不適切ケア(車いすをゆすったり、肩を抑えたり等)の意味を話し合い、「拘束のないケア」の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について2か月に1回、ケアの講習会と現場での取り組み状況、ケアの実践などを話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様には、相談しながら活用していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をさせて頂き、疑問に丁寧にお答えする事で理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご家族の意見、不満、苦情をお聞きして運営に反映させている	毎月利用者一人ひとりの様子を「おたより」にして家族に送付することで、事業所での利用者の様子などが報告され、共通の話題づくりに繋げている。そうしたなか、家族から電話があった時に、入居中の様子を伝えるなかで、家族から意見を聞く機会としている。	家族も運営に参画している意識を持っていただくためにも、具体的に家族から運営に関する意見を聴取できるように働きかけに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月行い運営者や管理者は、その場で職員と意見や提案を交換することで反映に努めている	職員会議を毎月実施するなかで、職員から物を叩く利用者への音抑止の工夫や、便をこねる利用者のエプロンを用いて手が入らないようにする工夫などの提案があり、職員のアイデアを取り入れ、改善に結びつくケアが実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が資格取得を目指すよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせた研修計画を立てている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学を常時受け入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接会い、不安点や要望をご本人と良く話し合いお聞きする時間を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談に応じている ご家族等困っている事に耳を傾け、安心して頂くような声掛け、関係づくりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長、ケアマネージャーが中心になり、在宅生活継続の為にサービス利用も含め話し合い、決定するように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から学ぶ事も多く、利用者のお話を良くお聞きして喜怒哀楽を共にする関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で報告又はご家族の面会時に利用者様の近況を報告し、一緒に支えていく関係を築いている。また、毎月ホームでの生活の様子が変わる様にお便りを郵送している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚や友人の面会時は、常に和やかに話が出来よう雰囲気作りに努めている	コロナ禍前は、面会時に話ができるよう、お茶を入れるなどのおもてなしを行っていたが、現在は面会に制限があり、面会時はガラス越しの対応となっている。2ヶ月に1回の訪問美容があり、馴染みの関係を構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、特性を把握し、利用者様が孤立しない様利用者同士の交流の橋渡しに努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方との付き合いを大切にして、退所後も必要に応じて、相談に応じ家族の支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族やご本人に希望や要望を伺いケアプランに入れている	ケアマネジャーが、利用者が入居して落ち着いた1ヶ月頃に、アンケートをとっている。「今後の生活に不安があるか」「会いたい家族や友人」など11項目の内容を聞き取り、思いや希望の把握に努めている。日頃から利用者の表情や落ち着かない様子等の観察を行い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族とのとの会話の中で利用者様の生活歴や生活環境を把握し、サービスの提供に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身状態をみて、その方の力を活かす介護をさせて頂いている。日々記録を取り把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にカンファレンスの実施 主治医の意見を求めながら介護計画を作成している	アセスメントをもとにカンファレンスを行い、職員からプラン案の内容についての意見を聞き評価している。短期目標が達成・実践したかをプランニングに落とし込んだものをモニタリングし、ケアに直結できる介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の話した言葉、会話、エピソードなど日々記録し情報を共有し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応じて、入居前の居室に荷物の搬入の許可 内科、他科受診など支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民、民生委員、ボランティアの方々の来所で利用者様との交流を深めている 消防士の方に来て頂き消化避難訓練を指導して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回高崎中央病院に訪問診療をお願いして受診時に主治医に相談をしご意見を伺いながら対応している。その他にも訪問歯科外来に行く等適切な医療を受けられるよう支援している	毎月2回協力医が往診していたが、コロナ禍1回の往診がある。協力医による連携もあり、協力医以外の受診も可能ななか、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	食事や排泄、昼夜の行動など、協力をして頂いている病院の看護師の方に、日常の身体状態を観察し、気軽に日々の状況を報告し、相談にのっていただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、サマリーの提出 入院先の医師、看護師等病院関係者と常に連絡を取り合う様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針をご家族に、また差し支えなければ、ご本人も一緒にケアマネージャーも参加して話し合い、情報共有に取り組んでいる 今後の変化に備えて検討や準備をしている	重度化や終末期については、入居時に本人・家族を含めて話し合いを持ち、その方向性や意向などを共有している。基本的には、医師の指導を受けながら、病院での対応としている。看取りの実施については、看護師が不在のため今後の検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を掲示。職員にすぐ解るようにしてある。マニュアルを常備して訓練をしている。利用者様の転倒防止等ケガや急変した場合などに備え呼吸法など救急車が来るまでの蘇生法の訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害など緊急避難に備えて、年2回消防車をお願いして避難訓練、消火訓練を実施している 緊急時、近所の方にも協力をお願いしている	年2回の避難訓練で、うち1回は自主訓練をしている。主に火災想定が中心で、行っている。居室から誘導する際は、居室入口の造花を廊下に落とし部屋を閉め、利用者の名前と電話番号を記入した名札をつけるなどの対策をとっている。	今後、地域の協力依頼をするなかで、避難訓練にも参加していただき、協力体制を築けることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で利用者への対応や、お声掛けについて話し合っている 何か失敗等した時は、周りの人にわからないように心掛けている	声かけのタイミングを大切にしており、時間で判断し静かに手引き歩行してトイレに誘導したり、個々のプライバシーを尊重して、耳元で声かけして誘導したりして、その場面に応じた声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームでの生活の中で利用者様自身がしたい事を見守りお声掛けは常に問いかけの形でご意見を尊重しながら対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや入浴など、利用者様が希望しない場合は、無理をせず中止にさせて頂いて、入浴は次の日にしたりしている。自室に自由に出入りが出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に応じてお洋服選びの支援をしている ご家族の了解の上、定期的に出張美容室のカットをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの好みをお聞きして献立に活かしている 季節の物を美味しく頂ける様食事の形態にも気を付けている 職員が同じテーブルで食事をして献立の説明などをしたりしながら楽しく食べて頂いている	事業所では、調理を専門に行っている職員が3人常駐し、ローテーションをしながら調理にあたっている。利用者の好みを聞いて、メニューに活かせるよう話し合っている。職員は利用者を見守りながら、食事内容を説明して一緒に食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に適し、ミキサー食・刻み食等に変え対応し、又体調に合わせおかず選びもしている。水分量、食事量のチェックは毎日行い状態把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアで、自分で磨ける方はお声掛けをして、無理な方は職員が磨いてあげる 口腔ケアスポンジなども使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、時間でお声掛け・誘導をしたりして気持ちよく排泄が出来る様に支援している	排泄表にそったトイレ誘導をしながらも、利用者の動きや表情を観察した誘導も行っている。リハビリパンツを利用している方もいるが、自立に向けた排泄支援を行うために、極力トイレの便座に座ってもらうよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、飲み物など工夫している 必要に応じて主治医に処方された飲み薬（マグミット・ラキソベロン・センナ等）を使用したりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回と決まっていますが、利用者様に無理をさせず清拭等で本人の希望やタイミングに合わせ支援している	入浴は週に2回、午前中に行っている。入浴後は、血圧測定などを行い健康管理を含め、保湿剤を塗布し皮膚の乾燥を予防するなど、個々にそった対応がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や健康状態をみて安心して気持ちよく休んでいただける様、夕方に興奮させない様気を付け必要に応じて医師に処方された眠剤を使用する事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病や身体状態に合わせ処方された内服薬や坐薬を必ず確認し、また副作用などが起こった場合月2回の訪問診療や直接電話をして主治医に相談をして適切な処理を行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かし読書が好きな方には静かな環境を提供している。希望で洗濯物・ビニール袋たたみ等や頂いている方、雑巾なども縫って頂いている方もいます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の季節の行事で、花見や果物狩りを予定しているが、近年はコロナウイルスの為、全部中止となっております	コロナ禍前は、バラや桜・しょうぶなどを見に、戸外への散歩を行っていた。コロナ禍では、ひな祭りや十五夜の飾りつけをしたり、窓越しに花火を見たりなど、室内での行事となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金を使うことはありません トラブルや争いに発展する事がある為、所持はしていません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望すれば、いつでも電話を掛けて頂いたり、手紙を書く支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝起き場所と食事場所は区別している 食堂でご飯を食べホールに戻り、ソファでゆったりテレビを観たりお話をされたり、心地よい空間・照明などにも工夫している	食堂とホールに分けられて、イベントの開催はホールを活用している。廊下が広く、職員の見守りなかの行動や、手引き歩行など、自立を促すために空間を利用している。食堂の壁には、イベントの時の写真が整理して掲示され、食事は密を避けるために対角線に座るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きなところに座って頂き気の合った利用者様同士が和やかに会話など出来るよう常に工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅に居ると変わらないように、仏壇を置き、毎日お水や手を合わせたり、ご家族の写真や好きな物を飾ったり、心が落ち着いて過ごせるよう工夫をしている 寝具など衣類もご家族が持参されている	居室づくりは、生活をしていく上での安全を考慮して、危険のないよう配慮し、クローゼットに収まるよう透明のプラスチックケースを持参していただいている。持ち込みは自由で、テレビを持参している人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来る事、わかる事を会話の中で知り出来るだけ失敗を防ぐ工夫をしている 安全面には特に注意をして見守り自立した生活が送れるよう支援している		